

◆ 目黒区 ◆

中小企業の景況

平成 30 年度第 1・四半期
(平成 30 年 4~6 月)



目 次

1. 都内中小企業の景況	1
2. 目黒区内中小企業の景況（平成 30 年 4～6 月期）	2
(1) 今期の特徴点	2
(2) 今期の景況と来期の見通し	4
製造業	4
卸売業	8
小売業	11
サービス業	14
建設業	17
(3) 調査員のコメント	20
3. 日銀短観／東京都と目黒区の企業倒産動向（平成 30 年 6 月）	23
4. 特別調査「中小企業経営に関する各種支援制度の利用について」	26
5. 中小企業景況調査 比較表・転記表	28

調査の概要

1. 調査時期 平成 30 年 4 月～6 月期（四半期毎実施）
2. 調査方法 面接聴取調査
3. 調査の対象と回収状況

	調査対象事業所数	有効回答事業所数
製 造 業	86	86
卸 売 業	26	24
小 売 業	41	40
サ ー ビ ス 業	51	51
建 設 業	34	33
合 計	238	234

調査実施機関 一般社団法人東京都信用金庫協会

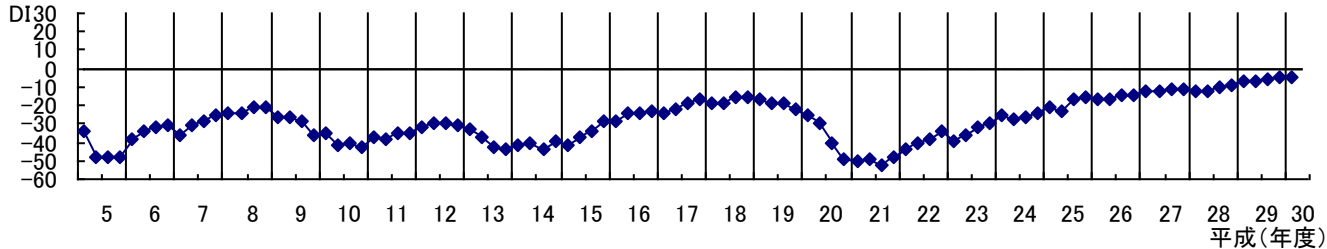
分析実施機関 株式会社東京商工リサーチ

1. 都内中小企業の景況（平成30年4～6月期）

（一般社団法人 東京都信用金庫協会調べ）

建設業、一層良好感が強まる。～不動産業はやや好調感が後退～

都内中小企業景況・6業種合計 DI



業況判断DI（季節調整済、「良い」企業割合）前期 今期 増減
来期予想 今期との増減「悪い」企業割合）は-4.4（前期は-4.2）
と前期に比べ0.2ポイント悪化した。業種別に見ると、建設業で
若干良好感が強まり、不動産業でやや好調感が後退した。
来期は、製造業、卸売業で水面下ながら明るさが見えると予想し
ている。

	前	期	今	期	増	減	来	期	予	想	今	期	との	増	減
製造業	-2.3		-3.6		-1.3		-1.7		1.9						
卸売業	-6.3		-5.5		0.8		-2.4		3.1						
小売業	-20.0		-19.7		0.3		-18.9		0.8						
サービス	-6.0		-5.9		0.1		-4.9		1.0						
建設業	13.2		15.1		1.9		14.1		-1.0						
不動産業	10.6		8.0		-2.6		7.5		-0.5						
総合	-4.2		-4.4		-0.2		-3.4		1.0						

<製造業>

業況はわずかに低迷した。売上額・受注残・収益は前期同様変化がなかった。価格面では、販売価格は変動なく推移し、原材料価格は前期並の上昇が続いた。

経営上の問題点の上位2位は「売上の停滞・減少」、「同業者間の競争の激化」、重点経営施策の上位2位は「販路を広げる」、「経費を節減する」の順となっている。

来期の業況は水面下ながら改善するとみている。売上額は好転し、受注残は今期同様の水準で推移し、収益は水面下ながら持ち直すと予想している。

<卸売業>

業況は前期同様の厳しさが続いた。売上額は増減なく推移し、収益は水面下ながらやや改善した。価格面では、販売価格は変動なく推移し、仕入価格は前期並の上昇が続いた。

経営上の問題点の上位2位は「同業者間の競争の激化」、「売上の停滞・減少」、重点経営施策の上位2位は「販路を広げる」、「経費を節減する」の順となっている。

来期の業況は水面下ながら持ち直すと予想している。売上額は増加に転じ、収益は増減なく推移するとみている。

<小売業>

業況は前期同様の厳しさが続いた。売上・収益は前期並の減少が続いた。価格面では、販売価格は変動なく推移し、仕入価格はわずかに落ち着きを見せた。

経営上の問題点の上位2位は「売上の停滞・減少」、次いで同率で「同業者間の競争の激化」、「大型店との競争の激化」、重点経営施策の上位2位は「経費を節減する」、「品揃えを改善する」の順となっている。

来期の業況は今期同様の厳しさが続く予想している。売上額・収益は持ち直すとみている。

<サービス業>

業況は前期同様の厳しさが続いた。売上は増減なく推移し、収益は前期並の減少が続いた。価格面では、料金価格はほぼ横ばいで、材料価格はやや落ち着きを見せた。

経営上の問題点の上位2位は「同業者間の競争の激化」、「売上の停滞・減少」、重点経営施策の上位2位は「経費を節減する」、「販路を広げる」の順となっている。

来期の業況は今期同様の厳しさが続く予想している。売上額・収益は持ち直すと予想している。

<建設業>

業況は若干良好感が強まった。売上額・受注残・施工高・収益はやや前期を上回った。価格面では、請負価格はわずかに上昇傾向を強め、材料価格は前期並の上昇が続いた。

経営上の問題点の上位2位は「人手不足」、「同業者間の競争の激化」、重点経営施策の上位2位は「販路を広げる」、次いで同率で「経費を節減する」、「人材を確保する」の順となっている。

来期の業況は今期同様の良好感が続く予想している。売上額・受注残・施工高は増勢が一服し、収益は今期同様の増加が続くとみている。

<不動産業>

業況はやや好調感が後退した。売上額・収益はかなりの増加幅が縮小した。価格面では、販売価格は上昇が弱まり、仕入価格はやや落ち着きを見せた。

経営上の問題点の上位2位は「同業者間の競争の激化」、「商品物件の不足」、重点経営施策の上位2位は「情報力を強化する」、「販路を広げる」の順となっている。

来期の業況は今期並の良好感が続くとみている。売上額・収益は今期同様の増加が続くと予想している。

[注]

○D.I (Diffusion Index ディフュージョン インデックス の略)

D.I (ディーアイ) は増加 (又は「上昇」「楽」など) したと答えた企業割合から、減少 (又は「下降」「苦しい」など) したと答えた企業割合を差し引いた数値のことで、不変部分を除いて増加したとする企業と減少したとする企業のどちらの力が強いかを比べて時系列的に傾向をみようとするものです。

○ (季節済) D.I・・・本調査におけるD.Iは季節済D.Iを使用しています。

季節済とは、期ごとに季節的な変動を繰り返すD.Iを過去5年間まで遡って季節的な変動を除去して加工したD.I値です。修正値ともいいます。

○傾向値

傾向値は、季節変動の大きな業種 (例えば小売業) ほど有効で、過去の推移を一層なめらかにして景気の方角をみる方法です。